

◆1番（小川義昭君） 会派市民の会の小川義昭です。

まず初めに、角光雄市長には、初代白山市長の御当選、御就任まことにおめでとうございます。無競争当選という結果についても、旧松任市長として合併協議会長の任につかれ、複雑・困難な合併協議をまとめられたリーダーシップと、長年の政治・行政にわたる経験と識見、公正・円満なお人柄に対する広範な市民の信頼と熱い期待のたまものと敬服し、心よりお喜び申し上げます。新生白山市の建設と発展のために、そのお力を縦横に発揮いただきますよう御祈念申し上げます。

私は、自治体の行政や議会に直接かかわることは、これが初めてであります。ここに白山市初めての市議会の一般質問に当たり、一言心境の一端を申し述べたいと思います。

私の自宅は、白山市役所を目の前にし、その向こうに霊峰白山を鮮やかに見渡せるところにあります。けさも、その神々しいばかりの姿を拝しながらこの議場に参りました。議会フロアがある市庁舎の上層階からさらに高く見渡せる峰々の雪は、まだ厚く深いようですが、山頂から山里へ、そして野へ海へ広がる春の気配は目に鮮やかであります。田畑を起こす音と人々の姿が野から山へと広がり上っていくのも、もう間近でしょう。まことに心和む、心踊る出発の風景であります。改めて、これが我が白山市なのだ、そしてその歴史の第1ページを歩み始める白山市の春なのだと胸に焼きつけながら、新議会に臨む新議会人としての責任の重さに身の震える思いであります。

第1回白山市市議会議員選挙の新聞報道では、私たち全員が新議員と記載されておりました。新市11万市民から初めての審判を受け、それにふさわしい責任が問い直され、それにふさわしい議会のあり方、そしてそれにふさわしい議員行動が求められているのだと考えて、緊張ひとしおであります。この第1回市議会議員選挙は、それぞれ厳しい地区状況を超えて、いわゆる在任特例を適用しないという合併協議の決定によりとり行われました。合併により住民意識の転換も求められるその中で、地域社会の歴史的な転換を議会みずから率先、実行されたものであります。市民の代表という立場から、その決定にかかわられた旧市町村議会の人たちの御英断に敬服申し上げるとともに、その精錬な志を体して初心を忘れず、自由闊達な議論の府の一員として市民の負託にこたえ、白山市の発展に全力を尽くす覚悟であります。今後とも皆様方の御教示、御鞭撻をお願いいたします。

さて、初めての白山市議会における角市長の所信表明について、私見を含めて御質問いたします。

一つ目は、白山市総合計画の基本理念と策定日程についてであります。

さきの合併協議会で、白山市まちづくり計画、新市建設計画が決定されております。それは、旧1市2町5村が合併し、新たな市を建設していくための基本計画としての役割を果たすものとされ、より具体的な計画については新市において策定する総合計画、基本構想基本計画、事業実施計画などで策定されますと記されております。したがって、総合計

画の策定作業はこれからであります、まずその日程について、どのように考えておられるのかお伺いいたします。

角市長は、所信表明の中で、総合計画について、白山市スタート・アップ・プランと名づけ、各分野で専門家、市民の方の御意見を伺いながら取り組むと述べられております。また、合併を選択した背景、つまり国・県を取り巻く厳しい財政状況、少子高齢化社会や地方分権社会への対応に触れながらも、単に行財政の効率化だけにとどまらず、将来を見据えた体系に立って、夢や希望が持てる新時代にふさわしい自治体をつくり上げてこそ合併に意義あると述べられるなど、その基本的な考え、いわばつくった仏に入れる魂について、既に熱い思いを披瀝されておられます。それらの諸点については、私は全く賛同するものであります。

私も生かじりながら、地域の再生や地方分権時代の自治体の自立策について、試行、実践、実績などの先行例や参考例も各地に幾つか見られるようであります。従来の財政効率論では、過疎お荷物論に身をすくめる思いだったのが、視点と発想を変えれば、失われた健康な自然生活という本当の豊かさになり、地域補完型の暮らしが見えてくるという、いわゆる環境廃棄物の完全リサイクル利用社会、ゼロエミッションからF E C受給権、フーズ、エネルギーケアの自立圏、企業、個人自営者、地場の産業団体も含めた活動から産業連鎖、共生経済圏などの新しい理念やシステムも生まれていると聞き及んでおります。鉄は熱いうちに打てと言います。総合計画策定には、新しい時代を切り開く新機軸、鮮烈で大胆な白山市モデルを示されますよう御期待申し上げます。

二つ目は、総合計画の策定手法と市民参加についてお伺いいたします。

先ほども触れましたが、角市長は、各分野で専門家、市民の方の御意見を伺いながら取り組むとし、職員に対しても一人一人が知恵を出す、すなわち考える責任を果たし、業務を遂行していかなければならないと、市民参加の市政を強調されております。大いに共感するところではありますが、総合計画の内容は、住民意識の転換や脱皮も避けて通れないものになるのではないのでしょうか。住民意識の転換なくして夢や希望が持てる新市にふさわしい自治体はないのではないのでしょうか。それは、角市長も言われるように、単に行財政の効率化だけの我慢を強いるものであってはなりません。従来の受益者意識から、協働意識と市政参画へのより積極的な転換でなければならないと思います。そのためには、角市長の清新な基本ビジョンや理念が示されることが必要なのではないのでしょうか。そのことが、相互補完的な地域社会づくりへ市民の関心を広げ、意欲的な議論を喚起し、市民の専門的な経験や知見が引き出され、従来の単なる受益者意識から協働参加意識を生み出して、実効的な総合計画へとつながっていくのではないのでしょうか。

その上で、市民総参加の議論の機会などもセットし、審議会や検討会、そして諮問会議などにも従来の充て職やお伺い追認型を避け、意欲や経験、専門知見や実行力を持った現場的な人たちを登用すると同時にある程度の決定権を移譲するなど、実効ある市民参加の市政を推進していただきたいと存じます。角市長のリーダーシップなくして、白山市の

タート・アップ・プランなしという感じがいたします。角市長に大いに期待するものであります。

三つ目は、新市の都市計画の拡大と核づくりについてであります。

都市計画の策定に当たっては、個性や風土の異なった旧1市2町5村が一緒になったわけでありますから、それぞれの地域の特性を生かした拠点づくりと、その連鎖的なネットワークを展開されるよう御期待申し上げます。

その起点づくり、新市の顔づくりとして、旧松任市時代に作成されたJR松任駅前の整備計画に着手されていますが、白山市となった今、さらに白山市庁舎を含む市街地の集積を生かした再生策を白山市の都市計画の柱と位置づけ、推進することが望まれております。先般お披露目がありました金沢駅前の大ドーム建設を実現された金沢市のデザイン力のスケールやレベルはともかく、ほぼ同規模の人口と山間部も多く有する小松市のJR小松駅前と周辺市街地の再開発の姿を見ながら、この合併の機をとらえた白山市発信のゾーン、起点づくりはどう進められるのか、私も大いに関心が注がれるものであります。

そこで私は、JR松任駅周辺から商店街にかけての地域の再生、活性化が必要かとも思います。そのためのキーワードは、知的成熟だと思います。今後、第一線をリタイアしていく団塊の世代をターゲット、最大のボリュームゾーンであり、可処分所得が若者や子育て世代に比べて非常に高い、その団塊の世代をターゲットにした町づくりでにぎわい創出を考えるべきだと思います。

暁烏敏や島田清次郎、千代女、中川一政を初め、多くの芸術家を輩出してきた文化風土、豊かな自然から産出される新鮮な食材、全国的に有名な地酒、そして各地に受け継がれてきた伝統農芸等々、白山市の個性を強調し、イメージアップにつながるが大いに必要かとも思います。

そのためにまず、石川県第二の自治体にふさわしいアクセス性からも、JR松任駅に特急列車の停車をふやし、交流人口の拡大を図る。そして、観光客、ビジネス客に白山市の特徴や観光スポット、公共施設等を案内する情報発信基地となる白山市情報センターを開設してはいかがかと思います。

以上、私の心境の一端を述べさせていただきました。今後、総合計画へどのように織り込むか、私もさらに研究していくつもりであります。角市長の構想あるいは夢をお伺いできれば幸いかと存じます。

以上で、私の質問は終わりです。抽象的なところもあり、意余って力足らずでもありましたが、白山市の初議会に当たり、新議員の務めとも考え、初質問に立たせていただいた次第であります。どうもありがとうございます。